

市内医療機関の皆様へ

横浜市保健所長

豊澤 隆弘

インフルエンザの市内流行注意報発令に伴う注意喚起について（依頼）

日頃から本市の感染症対策に御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市では、第 51 週（12 月 18 日～24 日）の定点医療機関当たりの患者報告数が 14.38（暫定値）となり、流行注意報発令基準(10.00)を超えたため、12 月 27 日に市内にインフルエンザの流行注意報を発令しました。

区別の流行状況では、13 区で定点医療機関当たりの患者報告数が流行注意報発令基準を超えています。

市内でインフルエンザによる学級閉鎖や学年閉鎖を行った学校等は 80 校に上り、高齢者施設や保育園での集団発生は 10 件、医療機関での院内感染事例は 4 件報告されています。

本格的な流行期に入る前に、施設への持ち込み防止策、発症者の早期把握及び感染拡大防止策の強化が重要です。

御多忙中のところ誠に恐縮ですが、各医療機関における対策を徹底するよう「別添」の対応について、院内に御周知くださいますようお願いいたします。

<添付資料>

- 1 別添「施設への持ち込み防止策と感染拡大防止策を強化しましょう！」
- 2 横浜市インフルエンザ流行情報 6 号

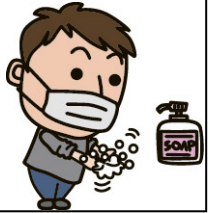
12月27日に横浜市はインフルエンザ流行注意報を発令しました！ 施設への持ち込み防止策と感染拡大防止策を強化しましょう！

- ◇ 市内では学級閉鎖が急増し、高齢者施設や保育所での集団発生、医療機関での院内感染例が相次いで報告されています。こどもと高齢者では入院例も出ています。
- ◇ 予防接種を受けていても発症を完全に防ぐことはできないため、予防策を徹底しましょう。
- ◇ 発症者を早期に把握する仕組みをつくり、周囲に広げない対策を行いましょ。

1 持ち込み防止対策の強化

(1) 職員の健康管理の徹底（集団発生の多くは職員等による持ち込みが発端）

- ◆ 出勤前の検温の徹底（発熱者は勤務させずに受診させる。）
- ◆ 発熱などの体調不良時は出勤前に必ず管理者へ報告するよう指導
- ◆ 無症状の職員も含めて全員のマスクの着用を徹底
- ◆ 1ケア1手洗い・手指消毒、使い捨て手袋の使用の徹底



(2) 面会に関する注意事項

- ◆ マスクの着用、手洗い及びアルコールによる手指消毒の積極的勧奨
- ◆ 地域の流行状況に応じた面会制限の実施

2 発症者の早期把握 及び 感染拡大防止

(1) 入所者や通所者等の健康管理の徹底

- ◆ 検温回数を増やすことを検討（発熱者の早期把握）
- ◆ 入所者の手洗い、咳が出るときのマスク着用の徹底
- ◆ 発熱等の有症状者は、早めに個室隔離等の感染拡大防止策を実施
- ◆ 発熱者はインフルエンザを疑い早めに受診させる。



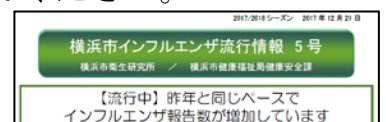
(2) 集団発生の早期把握と迅速な対応

- ◆ 患者発生に備え、施設内での有症状者の情報共有及び報告手順、緊急時連絡体制を確認
- ◆ インフルエンザ陽性者が発生した段階で、入所者等及び職員に対し、添付文書に基づき適正な日数の抗インフルエンザ薬の予防投与を検討
- ◆ 患者が複数名発生した場合には、直ちに個室等への隔離、面会禁止、新規受入中止、イベントの中止、スタッフ及び入所者の動線固定（他のユニット、フロアへの原則移動禁止）

3 流行情報の確認（今後の流行警報発令にご注意ください。）

横浜市衛生研究所では、毎週木曜日に「横浜市インフルエンザ流行情報」を発出します。区ごとの発生状況を公表していますので対策にお役立てください。

- ◆ 横浜市衛生研究所HP（市内の最新の感染症発生状況）
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>



横浜市インフルエンザ流行情報 6号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

《トピックス》

インフルエンザ流行注意報が発令されました。

【概況】

2017年第51週(12月18日～24日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で第50週の8.44^{※2}から更に増加して、**14.38(暫定値)**となり、**流行注意報が発令**されました(発令基準値:10.00)。

年齢別では、第51週で10歳未満の報告が全体の約6割、15歳未満の報告が全体の約8割となっており、小児の報告が多くを占めています。

今シーズンの学級閉鎖等の発生は、第51週に18件の報告があり(保育所・幼稚園1件、小学校16件、中学校1件)、報告数は累計80件となりました(保育所・幼稚園5件、小学校70件、中学校3件、高等学校1件、その他1件)。また、新たに病院や高齢者施設での集団発生も報告されています。持ち込み防止対策を徹底しましょう。

第51週の迅速診断キットの結果は **A型69.4%、B型30.6%**と、A型が多く検出されています。

今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、正しい手洗い^{※3}等の予防や早期受診などの対策^{※4}が重要です。

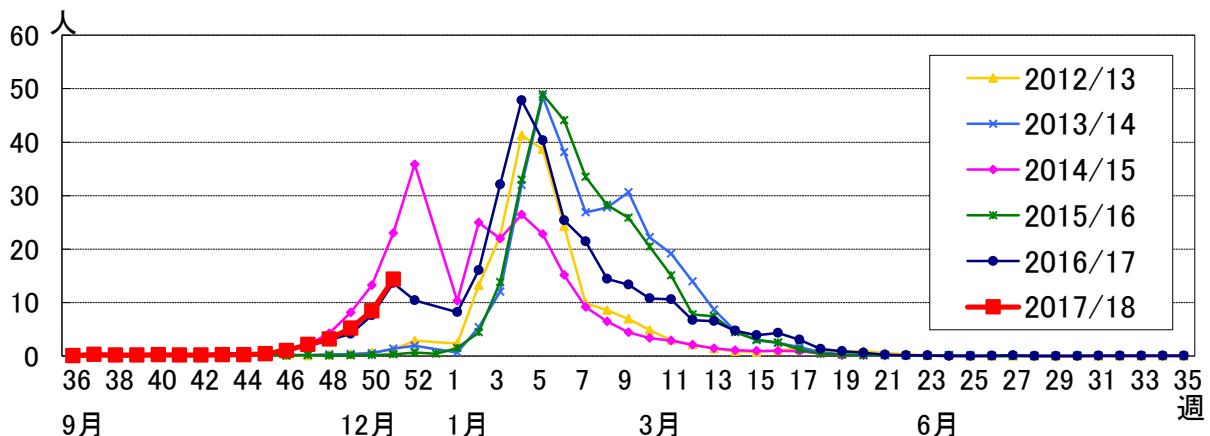
※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

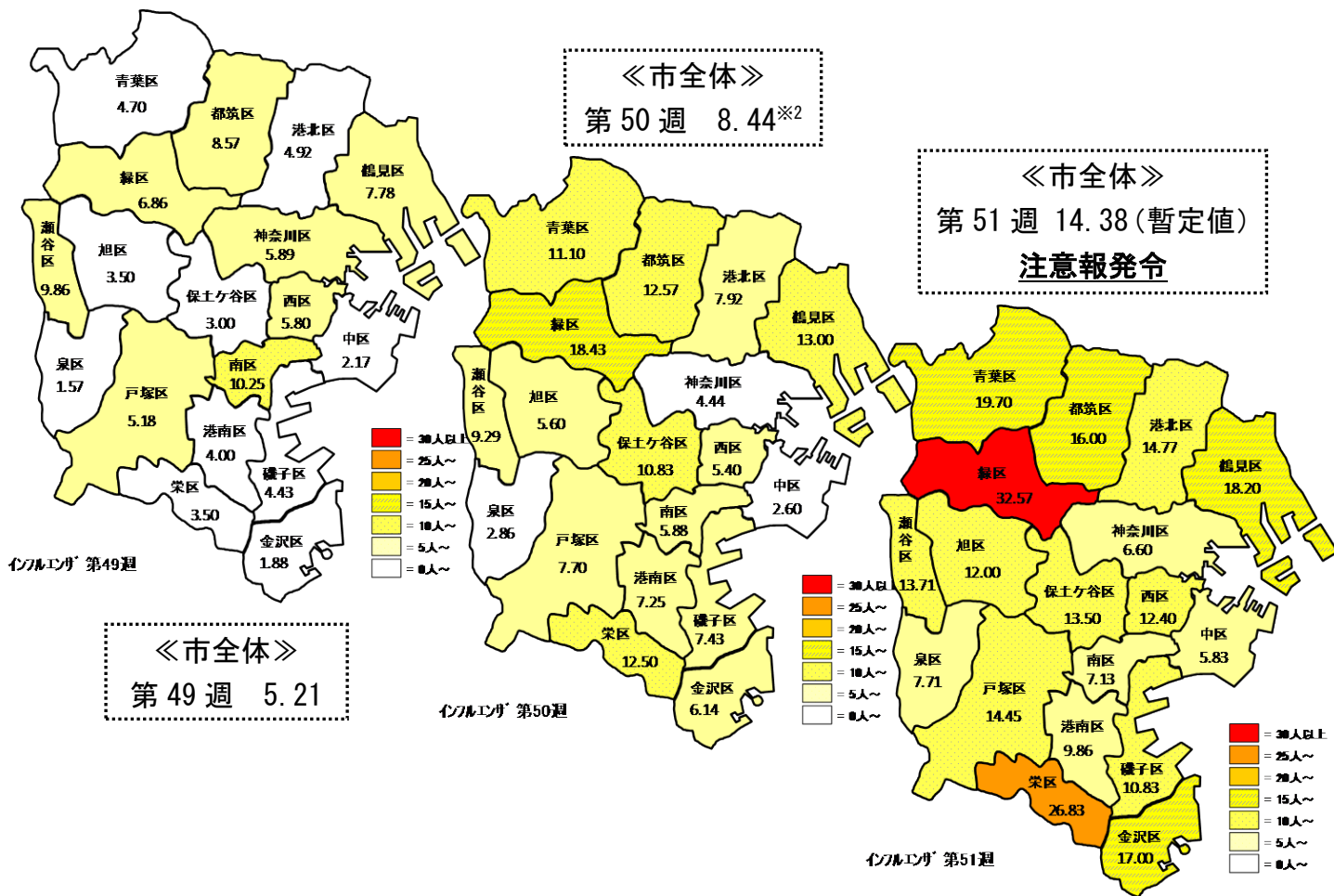
※3 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※4 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

- 1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、流行開始となった第46週の1.01から増え続け、第51週で14.38(暫定値)となり、流行注意報(基準値:10.00)が発令されました。昨シーズンも第51週(平成28年12月19日～25日)で注意報が発令されています。



2 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

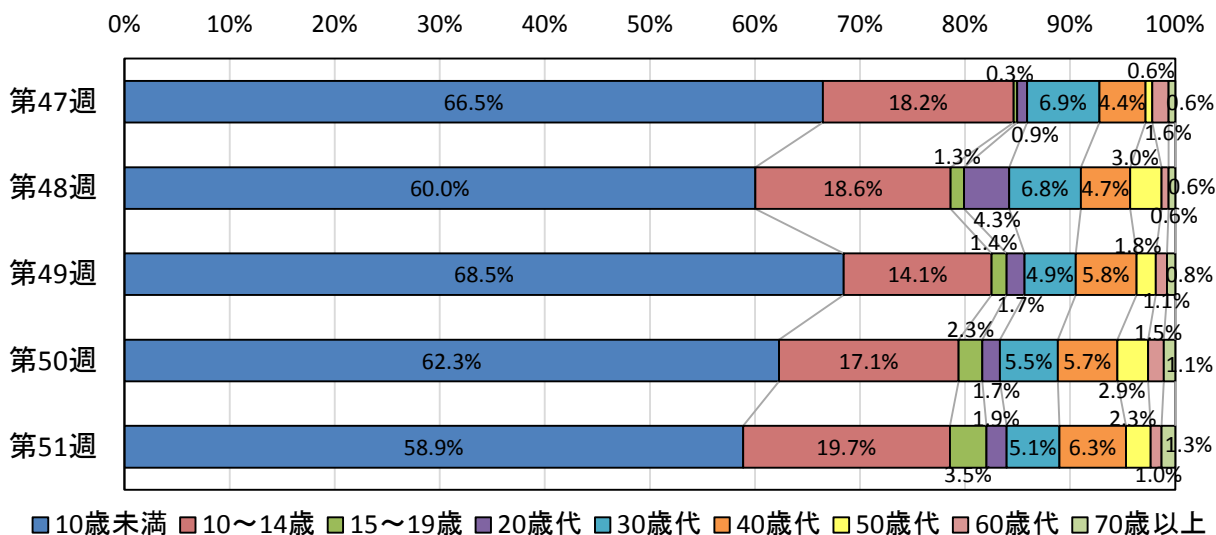


市内全体で定点あたり 10.00 を超えたため、流行注意報が発令されました。昨シーズンも第 51 週 (平成 28 年 12 月 19 日～25 日) で注意報が発令されています。

市全体で定点あたり 30.00 を超えると、流行警報が発令されます。昨シーズンは第 3 週 (平成 29 年 1 月 16 日～22 日) で発令されています。

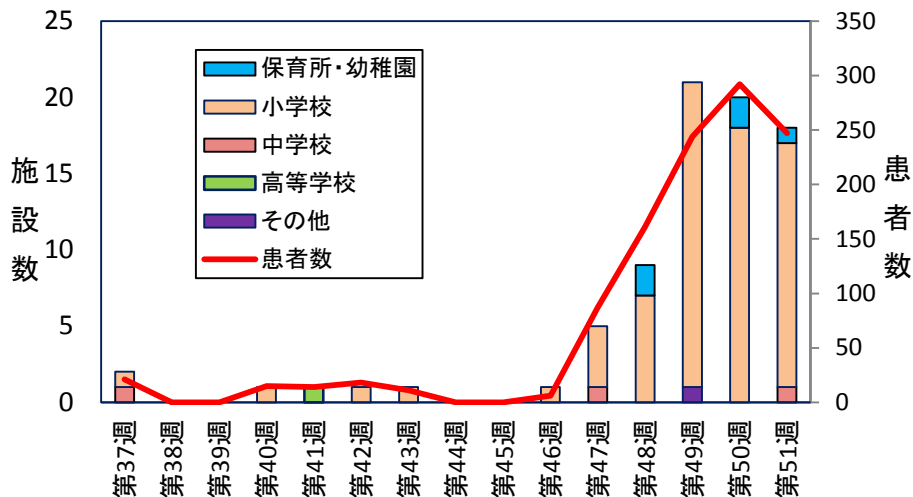
3 年齢層別集計:第 51 週の患者年齢構成は、10 歳未満が全体の 58.9%、10 歳以上 15 歳未満が全体の 19.7%を占めており、15 歳未満が全体の 78.6%を占めています。また、60 歳以上は全体の 2.3%となっています。

年齢層別患者割合

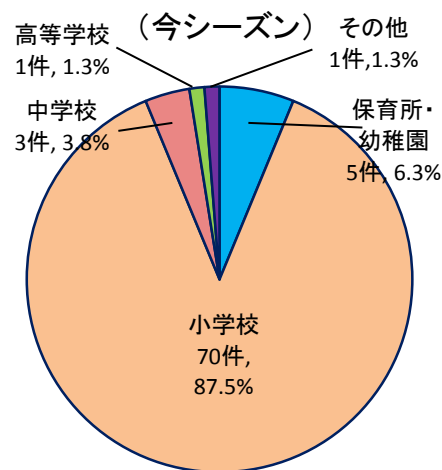


4 市内学級閉鎖等状況:今シーズンは第 51 週までに累計 80 件が報告され、報告された患者数は延べ 1,116 人となっています。特に第 47 週以降は急激に増加しています。報告された施設の割合は、保育所・幼稚園 6.3%、小学校 87.5%、中学校 3.8%、高等学校 1.3%、その他 1.3% となっています。第 51 週は 18 件の報告があり(保育所・幼稚園 1 件、小学校 16 件、中学校 1 件)、報告された患者数は 247 人でした。

学級閉鎖等の施設数と患者数の推移



学級閉鎖等の施設の状況 (今シーズン)

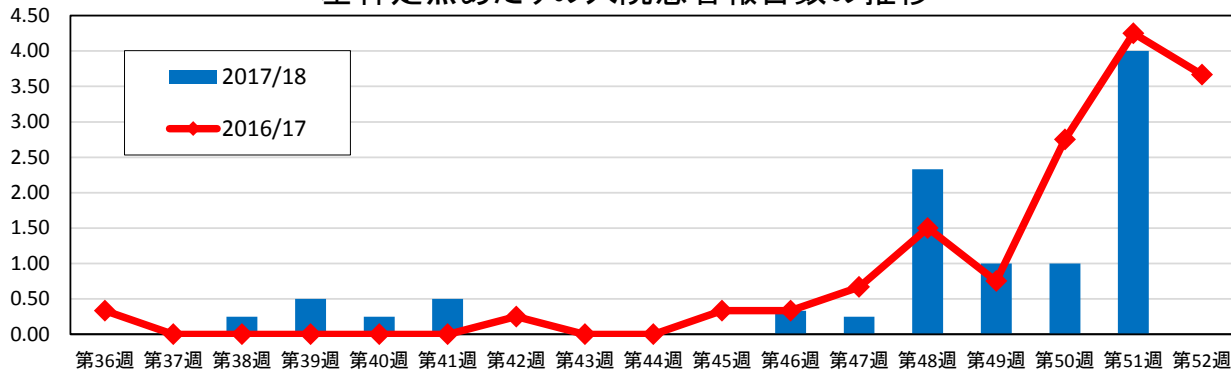


5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※5}におけるインフルエンザ入院患者は、第 51 週までに累計 29 人の報告があり、うち、15 歳未満が 8 人、60 歳以上が 18 人となっており、小児と高齢者の報告が多くなっています。第 51 週は 8 人の報告がありました。

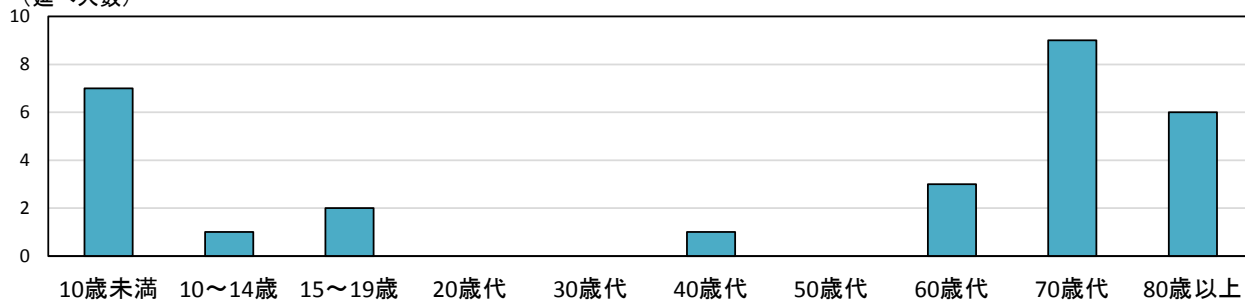
入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU 入室、人工呼吸器の使用、頭部 CT 検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第 51 週では 1 人の報告がありました。

※5 基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。

(人) 基幹定点あたりの入院患者報告数の推移

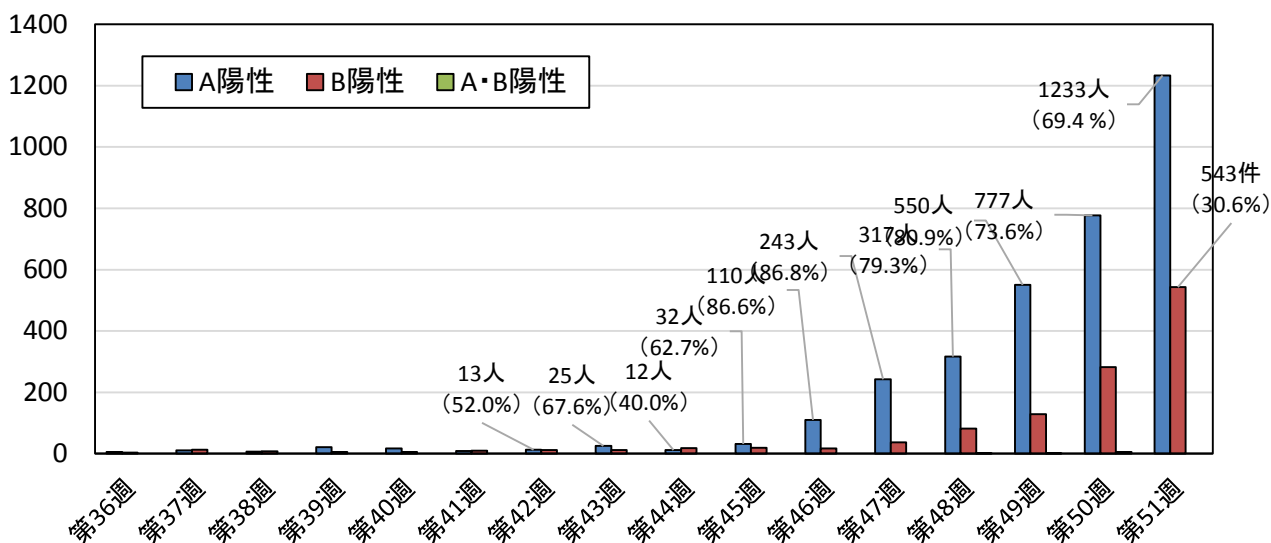


(延べ人数) 今シーズンの入院状況(年齢別)



6 迅速キット結果:第51週の迅速キットの結果は、A型69.4%、B型30.6%で、A型が多く検出されています。今シーズン累計では、A型73.8%、B型26.1%、A・B型ともに陽性0.2%となっています。

横浜市の患者定点医療機関における
迅速診断用キットによる型別の報告数(人)



7 市内病原体検出状況:市内では病原体定点^{※6}からAH1pdm(24株)、AH3(11株)、B(山形系統)(21株)が分離・検出されており、直近では、主にAH1pdmとB(山形系統)が分離・検出されている状況です。なお、Bビクトリア系統は市内にて分離・検出されていません。

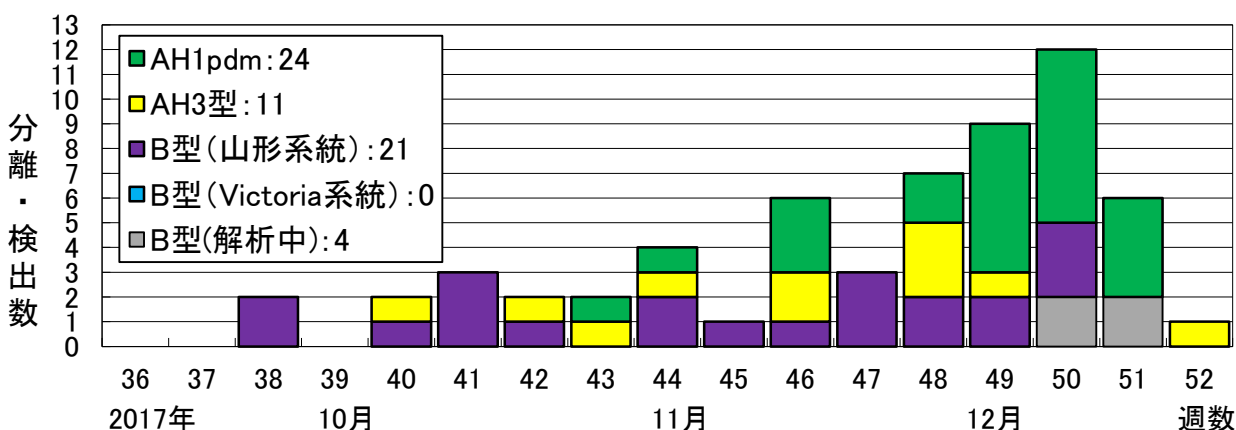
全国でも、主にAH1pdmとB(山形系統)が分離・検出されています^{※7}。

※6 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

※7 [週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数\(国立感染症研究所、12月22日現在\)](#)

市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

(2017年12月27日現在)



※参考リンク

近隣自治体の流行状況

○神奈川県 ○川崎市 ○東京都

全国の流行状況

○国立感染症研究所

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9279
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2442